

＜ティナラク・フェスティバル＞

7月13日から18日まで、南コタバト州の州都である、ココロナダル市（マーベル）で第7回ティナラク・フェスティバルが、今年は南コタバト州制40周年記念ということで、盛大に行われました。

初日はパレードで始まり、各町の山車には、ティナラク織がふんだんに使われていました。最終日にもパレードがあり、これはコンテストでした。1グループ80名以上150名以下という参加者数制限があり、ビラーン、チボリ、マギンダナオ民族の伝統的音楽、舞踏、衣装を基本に、統一性、芸術性を競いました。先住民族の伝統文化を評価し、積極的に観光資源として活用しようという表れです。

各町ごとの伝統的竹の家のコンテストもあり、期間中、それぞれの特産品を販売しました。レイクセブの竹の家では、COWHEDもティナラク織、ビーズ製品を販売し、マニラからの引き合いもありました。

ティナラク織というと、レイクセブが有名です。早い時期に現地に入ったミッションSCMがその継承に努め、日本のNGOや町も支援し、組織的に若い人に織の技術が伝わるようになった結果です。

同じアバカの繊維の織物でも、ビラーン民族のナバルタビは途絶えようとしています。今保存継承の為、私たちも支援を始めました。ナバルタビと言えば、アムグオ(P3)と誰でもが認識できるようになって欲しい、そして、それに私たちが加担できるのは、大変価値のあることだと、今回のフェスティバルを体験して強く感じました。



ティナラク織を手にした民族色豊かなパレード

＜縫製研修＞

女性組合COWHEDを支援する為、ティナラク織、又その製品の販売促進を図っていますが、残念なことに、簡単な小銭入れなどを除いて、組合員には作れる人がいないので、外注しています。前々から、この点を改善したいと思っていました。

南コタバト州の事業で、女性の就業を助ける為、洋裁講座やバッグ作製講座が無料で実施されていることがわかりました。7月5日から18日間の洋裁講座があり、組合員のバーバラが事務所を宿泊場所にして受講することになり、私も一緒に参加しています。このバーバラは、会報36号のプロジェクト写真報告で、ティナラク織ベスト縫製で夫の学費も稼ぐと、紹介されています。



バーバラ(左手前)、キャンデル先生(右手前)、
相田(後中央)

事務所から歩けば25分程のトレーニングセンターには、1997年にJICAから寄付された日本製の業務用ミシンが50台並んでいます。

毎回20名以上の参加があるそうですが、今回は12名のみです。バーバラ以外の参加者は洋裁で仕事をしようという予定ではないので、あまり熱心ではありません。遅刻、欠席が多く、半路程の出席しかない日もあります。足並みが揃わないので、計画通り進まず、バーバラも私も物足りなく感じています。早く洋裁講座が終わり、バッグ作製講座が始まってほしいと思っています。

バーバラが質の良い製品を作れるようになり、私はデザイン面で皆様の要望に答えられるように、二人して頑張っていきたいと思っています。